第１４回びわ環サークル例会活動報告

発表会

テーマ	びわこ環境学科３９期生の課題学習発表会	
開催日時	平成 30 年 12 月 8 日（土曜日）晴れ　　13：15～16：35	
場　　所	びわこ地球市民の森「森づくりセンター会議室」: 滋賀県守山市水保町２７２７	
テーマと発表グループ	琵琶湖の水を振り返る	４テーマの関連を説明し、LBW4 メンバー大滝、大野、小西、一色が発表
	びわ湖に自生する海浜植物	７名で取り組み、清田、百木、阿部、津田が発表
	近江の暮らしと水に学ぶ	５名で取り組み、辻が代表して発表
	湧水を活用した独特の文化形成推論	６名で取り組み、杉田、小篠、寺澤、井ノ口が発表
参加者	びわ環サークル事務局	一色実、大野光男
	滋賀大学「環境学習支援士」会、 レ イ カ デ ィ ア 大学	滋賀大学「環境学習支援士」会理事長橋田卓也、同理事　吉川義一、びわ環サークル顧問　青木豊明　36 期　高岡、37 期　藤岡純一、三好寿津代、川尻耕生 38 期　岡村保行、村井克之、39 期　阿部一広、井上俊道、井ノ口昭雄、大滝浩見、大野光男、寺澤孝之、清田輝夫、小篠伸二、小西愼一、谷弥一郎、辻和夫、杉田薫、北田彌生、津田美佐子、西木正枝、中川直人、松村さかえ、百木義忠、一色実、40 期　太田勝祐、木村和由、新垣重男、下山健二、山崎明成、田中稲夫、41 期　青木勇、東野、階元 37 名

1.はじめに

今回は、滋賀県レイカディア大学びわこ環境学科３９期生で取り組んで来た課題学習の報告会を外部の施設を借りて、卒業後に行う初めての試みになります。卒業された先輩や在校生を対象に、日頃から関係の深い滋賀大学「環境学習支援士」会にもご参加頂き、開催しました。初めに、発表会の主旨と４つの課題学習テーマの関連性について、一色が説明しました。

２．発表の概要

（１）琵琶湖の水を振り返る：

琵琶湖に注ぐ８つの河川の水質と野帳による観察、環境白書や昔の文献・データを調査し、むかしの水からいまの水、さらにきれいな水について、人間と生物との共存を考え、県民の視点での指標も交えていく必要性を説明している。自作した簡易の透視度計に関心を持って頂いた。

（２）びわ湖に自生する海浜植物

ハマヒルガオなどの６種類の海浜植物がなぜ琵琶湖に自生しているのかに疑問を持ち、文献と生態調査を現地で行い、ハマゴウやハマエンドウの保護活動も行っている。また、海浜植物が自生している要因として、琵琶湖の生立ちと、縄文海進や巨大地震の影響にも触れて考察している。

（３）近江の暮らしと水に学ぶ－カワト・カバタを通して－

滋賀県内に現存する２３地区のカワト・カバタ・橋板について、そこに暮らしている人々の協力を得て、水とのかかわりを調査した。その観察・インタビュー結果を写真とともに説明し、水辺景観の継承、水を大切にする精神文化、地区の結束の強さを知り、「カワト文化」の情報交換と教育の場への活用を訴えている。

（４）湧水を活用した独特の文化形成推論

琵琶湖を中心として滋賀県特有の湧水を含む地下水に着目し、県内９２カ所の湧水実態調査を行って、場所で５分類し、集落での信仰と水の結びつき、地蔵菩薩・観音様との関わり、物流・交通手段としての水利用などを推論し、その水質・水量と酒造業との関係についても言及している。現地調査量は距離も含めて断トツである。

３．反省点

・３７名で一番多くの方に参加頂いたが、皆さんからのアンケートに記載されているように、発表時間の管理や配布資料の準備などが不十分であったと反省しています。

・当初は、一般の方にも参加して頂けるように、「びわこ地球市民の森」の江見所長に施設利用許可を頂き開催を決定しましたが、不参加で工夫が必要と感じている。

写真１　：　発表会の全体

写真２　：　海浜植物の発表

４．アンケート結果

（１）今回の行事について：良い　３１名、普通　５名、悪い　１名

（２）改善点

・発表時間が予定よりも長かった

・パワーポイントの文字や色調が見づらい

・発表テーマの概要等の資料配布が欲しい

・質疑応答の時間が必要

・出席頂いた先生方の講評が聞きたかった

（３）その他

・びわ環サークルのホームページに、今回発表の資料を掲載して欲しい